

1.研修プログラムの名称

総合診療科研修プログラム

2.研修概要（理念・特徴）

東京医科大学病院総合診療科は、平成17年度に設置された新しい部門である。

総合診療科は、特定の病気や臓器に限らず幅広く診療する科である。原因のわからない発熱、倦怠感、体重減少、疲労感、健康相談、急性で軽症の内科系疾患を対象とする。丁寧な面接や診察と簡便な検査による、標準的で総合的な診療を心がけている。

病院を受診する患者の個々のニーズに対応した基本的な医療を、専門各科と連携しながら提供することが総合診療科の目標で、そのような診療を担うことのできる医療者を養成することも目指している。

3.一般目標

2020年度から必修化された一般外来研修を当科で行う。

プライマリ・ケアを中心に、generalに臨床医療一般に必要な能力を修得する。

4.具体的目標

1) 経験すべき診察法・検査・手技

- 1.全身の観察（バイタルサインと精神状態の把握、皮膚や表在リンパ節の診察を含む）ができ、記載できる
- 2.頭頸部の診察（眼瞼・結膜、眼底、外耳道、鼻腔、口腔、咽頭の観察、甲状腺の触診を含む）ができ、記載できる
- 3.胸部の診察（乳房の診察を含む）ができ、記載できる
- 4.腹部の診察（直腸診を含む）ができ、記載できる
- 5.一般尿検査（尿沈渣顕微鏡検査を含む）の適応が判断でき、結果の解釈ができる
- 6.血算・白血球分画の適応が判断でき、結果の解釈ができる
- 7.血液生化学的検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる・簡易検査（血糖、電解質、尿素窒素など）
- 8.細菌学的検査・薬剤感受性検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる・検体の採取（痰、尿、血液など）・簡単な細菌学的検査（グラム染色など）
- 9.単純X線検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる
- 10.X線CT検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる
- 11.注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保）を実施できる
- 12.採血法（静脈血、動脈血）を実施できる。

2) 経験すべき症状・病態・疾患

- 13.全身倦怠感を診察し治療に参加できる
- 14.体重減少、体重増加を診察し治療に参加できる
- 15.発熱を診察し治療に参加できる
- 16.咳・痰を診察し治療に参加できる
- 17.嘔気・嘔吐を診察し治療に参加できる
- 18.胸やけを診察し治療に参加できる
- 19.急性腹症について初期治療に参加できる
- 20.急性感染症について初期治療に参加できる
- 21.呼吸器感染症（急性上気道炎、気管支炎、肺炎）を診察し、治療に参加できる
- 22.ウイルス感染症（インフルエンザ、麻疹、風疹、水痘、ヘルペス、流行性耳下腺炎）を診察し、治療に参加できる
- 23.細菌感染症（ブドウ球菌、MRSA、A群レンサ球菌、クラミジア）を診察し、治療に参加できる

3) 特定の医療現場の経験

24. 予防医療の場において、食事・運動・休養・飲酒・禁煙指導とストレスマネジメントができる

4) 全科共通項目

25. 診療録（退院サマリーを含む）をPOSに従って記載し管理できる

26. 処方箋、指示箋を作成し管理できる

27. 診断書、死体検案書、紹介状、その他の証明書を作成し管理できる

28. 保健・医療・福祉の各側面に配慮しつつ診療計画を作成できる

5. 指導体制・方略

1) 外来研修では面接と指導医の下での診察、治療方針の決定を行う。症例検討会やトピック毎の勉強会でも指導する。

2) 病棟研修では指導医、後期研修医、初期研修医がチームになり入院患者を受け持ち指導する。外来と同様に症例検討会やトピック毎の勉強会でも指導する。

6. 週間予定表

	月	火	水	木	金	土
8:30	外来 または病棟	外来 または病棟	外来 または病棟	外来 または病棟	外来 または病棟	外来 または病棟
12:00			ランチョン セミナー			
13:00	外来 または病棟	外来 または病棟	外来 または病棟	外来 または病棟	外来 または病棟	
16:30	入院 カンファランス	外来 カンファランス	教授回診	外来 カンファランス	外来 カンファランス	

7. 研修活動

1) 医療安全管理実習

毎月当科から1人医療安全管理実習に参加する

2) 臨床病理検討会

適宜参加する

3) 臨床倫理カンファレンス

適宜参加する

8. 評価

4) 自己評価

患者記録表、教育的行事の参加記録並びに経験記録表に記録する

EPOCを用いて自己評価を行う

研修事後レポートを用いて自己評価を行う

5) 指導医による評価

EPOCを用いて評価する

研修事後レポートより評価する

他者評価表を用いて評価する

研修終了時に試験を行い、振り返りをおこなう

6) コメディカルによる評価

EPOC又は評価表を用いて評価する

他者評価表を用いて評価する

7) 研修医による評価

EPOC を用いて指導医（上級医）、診療科・病棟、研修医療機関、プログラムを評価する
評価表を用いて指導医並びにコメディカルを評価する

9.その他特記事項

専門外来として、禁煙外来、漢方外来を設けている。